

令和5年度（2023年度）第5回政策会議

日時：令和5年（2023）年11月29日（水）14:00～14:20

会場：市長会議室

参集者：大泉市長，田畑副市長，佐藤副市長，手塚企業局長，藤井教育長，
阿部企画部長，池田総務部長，島田財務部長

付議事項

次期函館市観光基本計画の策定について

対応者

柳谷観光部長，井本観光企画課長

◆議題の趣旨◆

次期函館市観光基本計画の策定について協議しました。

◆協議の結果◆

原案のとおり，本件の内容は了承されました。

◆主な発言◆

■柳谷観光部長

次期函館市観光基本計画の策定について説明する。本市で初めて観光基本計画が策定されたのが昭和57年（1982年）であり，以来，環境の変化や時代のニーズを踏まえた観光ビジョンを掲げてきた。この度の計画についても函館市観光基本計画策定検討委員会において議論を重ねてきたところであり，観光客良し，市民良し，地域良しの三方良しを目指す方向としている。概要については観光企画課長から説明する。

■井本観光企画課長

計画の概要について説明する。今回の計画は，5年後の函館観光のあるべき姿ということで議論を進めてきた。

計画の目的については，「函館観光に携わる人が一体となり観光業を活性化させ地域全体を潤すとともに，観光消費が多く産業や市民生活を潤していることに対する市民理解を深め，幅広い産業や市民の協力を得ながら，市民が誇れる観

光都市を実現する」と設定した。

計画期間は2024年から2028年の5年間としている。

基本理念として、「観光の価値を高め、観光で函館を照らす～もう一回、もう一泊、もう〇〇～」と掲げた。

基本方針については4つ設定している。

第1の「質の高い観光により観光消費額を向上させる」については、観光消費の拡大が大きなテーマであり、観光の質の向上、広域連携、適切な情報発信、二次交通等の利便性の向上、宿泊日数の増加、安心して訪れることができる観光地づくりを目指すというものである。

第2の「観光の繁閑差を是正する」については、これまでの当市の観光は冬場が弱いというのが課題としてあり、夏場の繁忙期との落差が大きいため、繁閑差を是正しようということで設定したものである。内容としては、冬季の外国人の誘客強化、魅力的な秋冬コンテンツの創出、閑散期において修学旅行などの特定旅行層の誘致強化に取り組んでいくものである。

第3の「函館観光を盛り上げる人を増やす」については、内容としては市民の参画促進ということである。

第4の「観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する」については、観光基本計画策定検討委員会において、観光産業はすそ野の広い産業であり、観光を多くの市民のみなさんに自分事として捉えていただきたいという委員の声もあったことから、市民の理解促進を目指して設定したものである。

以上、4つの基本方針を設定した。

次に5年間の目標値について説明する。

第1に「平均宿泊数の増加」である。基準年は2019年の新型コロナウイルス感染症感染拡大以前の調査結果になるが、当時の函館市の観光客の平均宿泊日数が1.23泊であり、2028年までの5年間の間に20%アップの1.48泊を目指すものである。宿泊日数を増やすことで、消費を増やしていくというものである。

第2に繁閑差の目安である平準化指数である。平準化指数とは繁忙期（入込客数の多い半期）の入込客数を1.00として、閑散期（入込客数の少ない半期）にどれだけ入込があるか数値化したものである。こちらも2019年の数値を基準年とし、2019年に0.58であった平準化指数を5年間で5ポイント改善し0.63を目指すものである。夏場のピークは現在かなり入込客数が多いが、冬場は落ちこむことから、夏場を落とさずに冬場をアップして、それを少しでもならし、観光産業の経営の安定化に寄与するというものである。

第3に「函館観光に関する取り組みに「参加する」市民の増加」、第4が「家族や友人知人に函館観光を「是非勧めたい」と考える観光客の増加」、第5が「市民

の観光への理解度の向上」であり、市民や観光客の意識に関するものである。これらについては、新年度以降、観光動向調査やアンケート調査で、こういった項目を調査し、目標値を設定するものである。

以上が、目標値の設定についての説明である。

最後に今後のスケジュールについて説明する。本政策会議を受け、議会へ説明し、その後パブリックコメントの実施を予定している。その後、函館市観光基本計画策定委員会を経て、今年度中の成案化を目指すものである。

説明は以上である。

■田畑副市長

基本計画の中に4つの基本方針があるが、これに基づき、今後具体的な施策を検討、展開していただきたい。

■柳谷観光部長

承知した。

■大泉市長

計画内容に関する進捗状況の検証は行われるか。

■井本観光企画課長

具体的な記載はないが、「函館市観光アドバイザー会議」において、毎年定期的に計画内容に関する進捗状況の検証を行い、時代の変化に対応した施策展開などを議論していく。

■大泉市長

承知した。

■阿部企画部長

他に意見がなければ原案のとおり了承とさせていただきます。